

- 反復処置法 (図 88-3)

腫瘍を摘出後開放創とし、数か月ごとに骨創面を被覆する瘢痕組織と新生骨を除去する。

- 開窓術

嚢胞状腫瘍に対して腫瘍壁の一部を切除し、口腔内に開放する。減圧するとともに吸収された顎骨の再生を促す。腫瘍の縮小を待って摘出・搔把術などの二次手術が必要である。

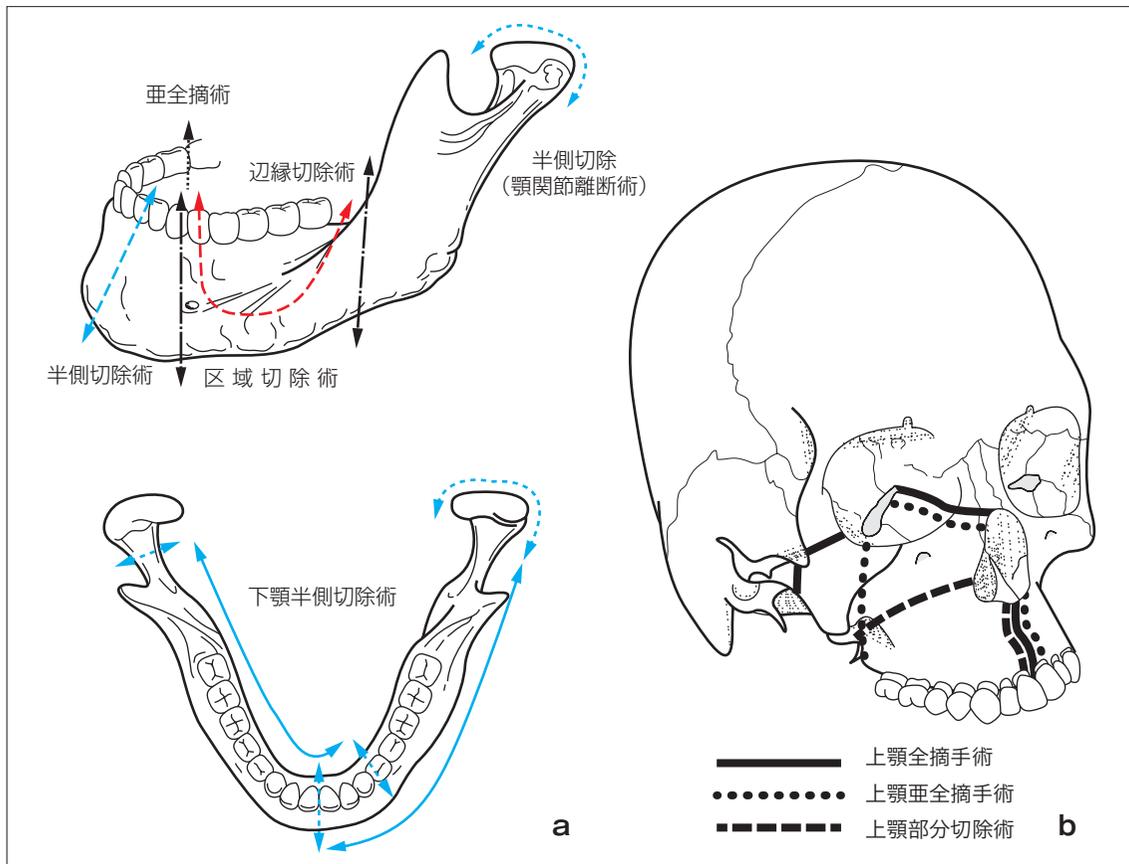


図 77 顎骨の手術 (a: 口腔癌診療ガイドライン改訂合同委員会編: 口腔癌診療ガイドライン 2019 年版, P74, 金原出版, 東京, 2019 より転載)

a: 下顎骨の手術術式

b: 上顎骨の手術術式



図 78 エナメル上皮腫の下顎骨辺縁切除術



図 79 切除下顎骨